



金岡中部自治会A

「豊かな町、豊かな心を作る町づくり」

子どもたちの頑張りを牽引力として、大人たちの意識改革をさせ、子どもたちの夢の詰まった環境を作りたい。

それには、子ども自ら活動して、自治会の大人たちの意識を持ってもらうように喚起するということが大切です。そのような経緯で、子どもから大人へ提案をできるように子ども会でエコについての勉強会を開催したり、子どもたちによるエコ会議で活動内容を考えてもらい、子どもの目線、意見を大切にし、何度も勉強会や会議を重ねました。

そこから、自分の身の回りの環境を綺麗にしたいということになり、河川清掃を実施し川を綺麗にして、自分たちが何十年後かに訪れた時に、町が自然環境保護を続けてくれるよう第一歩を踏み出しました。

また、『夏休み親子エコ教室』に参加し企業に出向いて環境教室や施設の見学をしました。パソコンの分解作業などを体験した子どもたちは改めてエコ活動の大切さを再認識したようです。





原地区社会福祉協議会「ひまわりグループ」

「あったゾー！！ ゴミの中から」

原地区社会福祉協議会「ひまわりグループ」では、エコ活動のひとつとしてウエス切りを行ない、高齢者施設へ届けています。ウエス切りとは、自治会、各家庭からでる古布を再利用するための断裁作業のことです。

古布はシーツやタオル、綿シャツ、薄手の綿布に限定し、洗濯後の比較的綺麗なものを収集しております。

原社協内に8つあるボランティア部の一つとして現在、約32名の部員がおり、原則1ヶ月に一度、原地区センターに集まりみんなで楽しみながらウエス切りを行っています。出来上がったウエスは、近郊の高齢者施設に順番に届け、介護施設では汚れものなどを拭くときに利用されており、大変喜ばれております。

また、ウエス切りの活動を途切れることなく続けていくために、年1回の勉強会や反省会などを開催しています。

平成7年に始めて今まで16年間活動を続けており、ゴミとして捨てられた中から、資源としてウエスに復活させています。また、地元中学校の生徒と共にウエス切りをおよそ3年間継続しており、小さな一歩ですが、次の世代へのボランティアの広がり方を期待しております。





エコネット沼津

「みんなでつくる、みんなでももる、
沼津の環境」

エコネット沼津は、沼津市環境基本計画の策定に関わった、熱き思いを持った市民有志が『環境に心を寄せる』をキーワードに、共に考え、互いに行動するネットワーク組織として昨年2月に設立いたしました。

現在 43 人の会員が沼津市環境基本計画の6つの重点プロジェクトを実現するために市民の目線で活動しています。『すごいぞ大地と海のめぐみプロジェクト』では、沼津の恵まれた自然、その恵みである海の幸、山の幸を満喫できる体験型のエコツーリズムを作ります。『海・山の自然を見つめ直そう牛臥山公園からプロジェクト』では牛臥山公園をモデル地域として市内に残されている自然環境を守り、環境教育や市民の憩いの場所として、広く活用できるよう活動していきます。『ごみニャーぬまづプロジェクト』では住む人も、来訪者にも心地よい、清潔で綺麗な街を目指しています。『地域エコリーダー育成プロジェクト』では市民一人ひとりが身の丈にあったエコ活動を楽しみながら実現できるよう、エコの種まきを行っていきます。そして『環境教育推進プロジェクト』では、多くの人が環境について基本的な知識を持ち、各自の生活で実践できるようになってもらうように活動しています。





審査員のご紹介

静岡県地球温暖化防止活動推進センター 事務局長

静岡県くらし・環境部環境局 環境政策課長

沼津市自治会連合会 会長

省エネ推進ネットワークぬまづ副会長

沼津市副市長

服部乃利子（審査員長）

斎藤博靖

高木 孝

佐竹哲郎

高橋正登

（敬称略）

コンテスト応募チームのご紹介

今年は27チームの応募があり、書類審査の結果10チームがコンテスト会場のステージ上で発表に臨みました。

惜しくも下記の17チームはコンテスト出場とはなりませんでした。どのチームも市内で身近なエコ活動に取り組んでいる家庭や地域、企業や団体の皆様です。（50音順）

I ♡ SMILE

地球に感謝！できることから始めよう！
～グループホームとエコ活動～

大平九区エコライフ推進会

身近なことからエコ活動。楽しみながら実践しよう！！

環美；富士の山

ゴミを拾って湾（うみ）の環境保全

沢田町子供会

エコキャンドルを作ろう！

しおみちエコ運動推進会

ライトダウンで家族の団らんを増やそう

新沢田町子供会

エコバックを作って ゴミを持ち帰ろう！

駿河台子供会

新一年生の公園花植えと2～6年生による公園清掃

チーム高尾台

河川ゴミを出すな！きれいな街 高尾台

チームMEIDEN

エアコン設定温度28℃

東大エコ・マラソン

目指せ 東大エコマラソン にぎやか、清潔、快適

東名町

電気を使わない暑さ対策

中沢田

みんなで集めよう エコキャップ！

長塚町子ども会

めざせ！住みよい町長塚

西沢田緑ヶ丘自治会

みんなで作ろう 緑豊かでさわやかなまち

沼津市東熊堂子供会

町をきれいに！気持ち良く！

松沢町子供会

きれい、人にやさしい松沢町

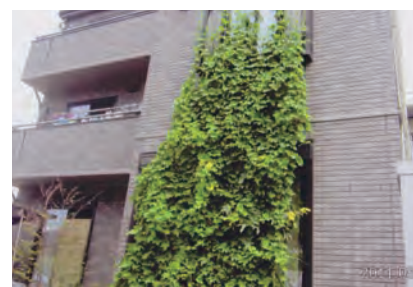
若葉町

ごみ減量に向けて意識向上

ご応募ありがとうございました。

緑のカーテン写真コンクール表彰式

「緑のカーテン」づくりを推進するため、市内の家庭や事業所などで育てた「緑のカーテン」の写真を募集した「平成23年度沼津市緑のカーテン写真コンクール」において団体の部・個人の部それぞれの部門で上位入賞された方々に対し、表彰を行いました。



【団体の部】最優秀賞
戸田地域魅力増進協議会様

【個人の部】最優秀賞
神山 千枝子様

【個人の部】最優秀賞
木村 美和子様



【団体の部】第2位
国産電機(株)品質環境管理係
TQCサークル北斗イレブン様



【個人の部】第3位
風間 昌一様



【団体の部】第3位
愛鷹広域公園様



【個人の部】第3位
野村 静子様



エコ展示会

コンテスト会場の大ホールロビー周辺では、省エネ機器の紹介や温暖化防止、環境保全に取り組んでいる団体や企業などの活動を紹介する「エコ展示会」を開催しました。

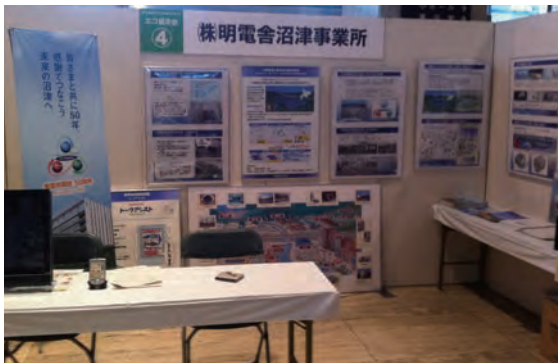
14のブース等が出展し、来場者は各ブースを回るスタンプラリーを楽しみながら、エコ活動への関心を深めていました。

コンテスト発表チームの皆さんも情報交換も兼ねて訪れていました。

..... エコ展示会出展団体のご紹介(ブース番号順)



沼津松の実生活学校



(株)明電舎沼津事業所



沼津工業高等専門学校地域共同テクノセンター



富士通(株)沼津工場



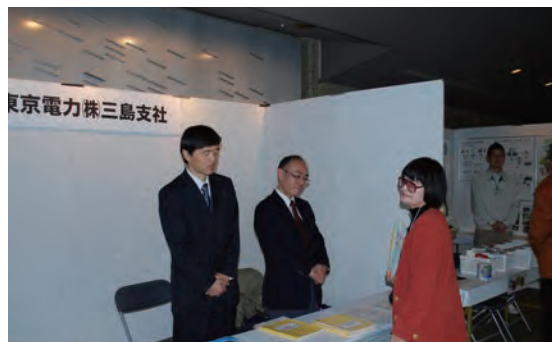
静岡県地球温暖化防止活動推進センター



大岡なかよしクラブ



NPO 法人狩野川倶楽部



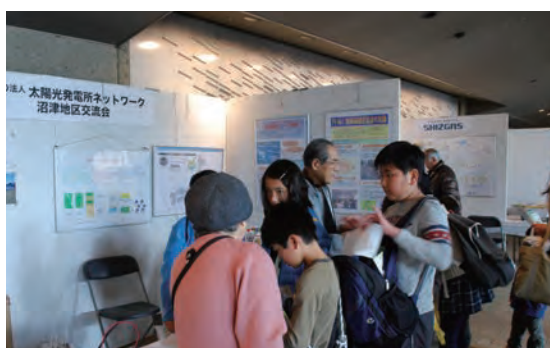
東京電力(株)三島支社



矢崎電線(株)沼津製作所



沼津市ごみ対策推進課



NPO 法人太陽光発電所ネットワーク沼津地区交流会



沼津市環境政策課・省エネ推進ネットワークぬまづ



静岡ガス(株)東部支社



沼津市緑地公園課



沼津市地域エコリーダーの活動紹介



コンテスト応募チームのご紹介



「川から見た世界のエコ活動」

講師：浅野重人さん プロ・ラフティングチーム<チーム・テイケイ>監督

1974年 南アフリカ共和国ヨハネスブルグ生まれ

1993年 オーストラリアで最年少（19歳）ラフティングインストラクターとなり、以降世界17カ国、40以上の激流を下る。

1999年 日本代表チームを結成し競技ラフティングで世界に挑戦するも最下位という苦渋を飲まされる。その経験からリーダーシップ、メンタル理論、日本人の強みを活かしたチームビルディング論を徹底的に研究し独自の理論を創り上げる。

2010年 ラフティング世界大会・オランダにて総合優勝を成し遂げ、日本が向こう50年にかかるといわれた競技ラフティングの世界を10年間で世界一に引き上げた。現在は講演、執筆、自然体験活動を行いながら、これから人類が向かうべき生き方の提案をメッセージとして伝えている。2011年コスタリカ世界大会では世界2連覇を達成した。一般社団法人日本チームビルディング協会顧問。

著書：「どん底から世界一」世界最弱ラフティング日本を8年で世界一に導いた心の整え方（エベイク）

今回は「川から見た世界のエコ活動」というテーマで講演をさせていただきます。

私は、子供の頃から親しんできた伊豆地域や狩野川が大好きでしたし、不思議な魅力と豊かな自然に溢れている場所だと思っています。私たちはそれを残すために何をすべきなのでしょう。

私は競技活動のために世界中の様々な川や激流をラフティングで下りましたので、日本と海外の川の違いを比較してみました。すると大きな違いがわかりました。それは日本の場合は水辺に気軽に近づくことのできない場所が多いということです。これは狩野川だけではなく日本全国どここの川でも言える事です。公園として整備されている所以外は気軽に水辺に近づけない様になってる理由を私なりに考えてみました。

最大の理由は、ゴミを不法投棄する人がいるからだということでしょう。また、水難事故があった時に責任問題になるから近づけない様にゲートを張っているという理由もあるでしょう。そう考えた時に私は本当に不思議だなと思いました。なぜなら、それが世界の常識とあまりにもかけ離れているからです。日本のルールは「しない、させない」が基本です。問題が起きないように人を近づけない、ゴミを捨てる人がいるかもしれないから近づけない。危ないから近づけない。しかし海外では水辺に近づけるところが多いのです。

自然の厳しさも優しさも素晴らしさも上手に付き合いながら学んでいく。我々人間は川を含め自然の上に生かされてる訳ですから、自然との上手な付き合い方を身をもって体感しながら考えて行くべきだと思います。日本のような「しない、させない」の考え方ですと自然環境から心が離れていって、結果的に何か実感のない遠い物の様になってしまう。

僕が考えているエコ活動は心がエコになるということです。人工物ばかりの都会にいる事に何か違和感を感じたり、木があったり水が流れたり川のせせらぎ、鳥の声が聞こえたりすることを気持ちよく感じる。それが人として自然な事なのです。義務感などではなく、自然に感じるということがそもそものエコなのではないかと思っています。ですから私はこれからも一人ひとりがその自然に対して親近感を持つと言う事を伝えていきたいと思っています。

自然に触れ合うという事は本当に単純な所からで良いのです。川で泳いだり、釣りをしてみるのもそうですし、まずは自然を楽しんでみる、そこから始まると思います。義務や強制ではなく自然に考えられるよう、楽しむことから始めるのが良いのではないのでしょうか。

私はこれからも自然環境に親近感を感じる体験を積極的に進めようと思っています。みなさんも身近な自然を守り育てることからは始めるのが良いでしょう。

楽しい事をして夢を追う人達が増える事が一番大事なのではないかと思います。それを次世代の子供達に伝えて、その影響を受けた子供が自分達なりのやり方でまた夢を追って行くという事が大事なのではないかと思います。そんな人が増えてくれば世の中は勝手に良くなって行くと思います。

現在、全国の河川では定期的に清掃活動が実施されています。狩野川でもクリーンアップ、川の清掃活動をイベントとして実施していますが、私たちも参加させていただく機会がありました。ゴミを拾うためのラフティングですと少々義務感が先行し、やらされている感が強くなってしまいます。そこで川を感じて自然を感じて楽しもうということにしますと、気持ち良かったら自然にそこにあるゴミは拾いたくなりますし、自分たちは捨てないようにする。そんな無意識なところから始まって、そして好きだからこそ汚したくない、好きだからこそ大切にしたいというように気持ちが自然に湧いてくるようにします。

どんなに川の素晴らしさを口で語っても裏付ける実感がなければ身にならないのです。狩野川は素晴らしいな、自分の住んでるこの場所、沼津というまちは自然があって素敵な川があるんだと誇りに感じることで、そこから大切に守っていこうという気持ちが生まれてくる訳で、その心が大事だと思うのです。

私が後世に何を残せるのかと考えた時に、環境と知恵しかないと思いました。それをやらなかったら私たち大人は、先人としての役割を果たしていないのだとも思います。そして後世にバトンタッチして、先の時代にエコ意識や環境に対する真摯な思いを大切に伝えていかなければならないですし、自分たちだけでなく後継者を育成するエコ活動が私の理想であり務めだとも思っています。

強制や義務感からではなく、楽しみながら実行するエコ活動が継続のキーワードだと思っています。

(講演のスピーチより抜粋いたしました)

同時開催 ちびっこ自然学校

第2回ぬまづエコ活動コンテスト当日には、屋外において協力団体のNPO 法人狩野川倶楽部による「ちびっこ自然学校」が開催され、子どもたちが木登り体験やネイチャークラフトなどを楽しみました。





エコ活動の「芽」が
大きく育ちますように

沼津市生活環境部環境政策課

沼津市御幸町 16 番 1 号

電話：055-934-4741

※この事業は全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施しました。